

2023年度

小学生・中学生の **人権作品集**

な か ま

会長賞



城辰小 3年 ひがし 東 あいり 愛菜

会長賞



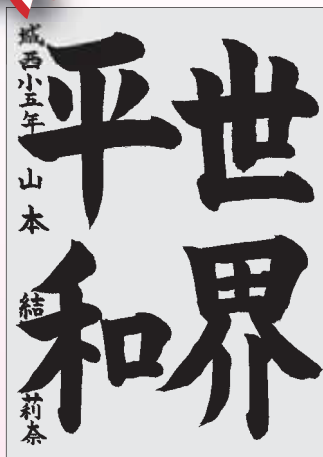
飯野小 6年 おおしま はる み 大島 晴美

会長賞



南中 2年 みくりや さ お り 御厨 沙央利

会長賞



城西小 5年 やまもと ゆ り な 山本 結莉奈

会長賞



飯山北小 6年 さわだ りつ か 澤田 立夏

会長賞

標 語

人の個性 今の時代は 多様性

飯山中 1年 や の しん た ろ う 矢野 慎太郎



東中3年 かなまる こはる
金丸 心晴



西中3年 はしもと みのり
橋本 珠実



南中3年 いしだ はなか
石田 花夏



本島中3年 おかだ ゆな
岡田 結和



綾歌中2年 よこい いちか
横井 一花



飯山中3年 はまもと ひなた
濱本 妃奈七



城乾小6年 いけぐち りんか
池口 凜香



城西小6年 いわごえ りせ
岩越 莉世



城坤小6年 おおにし さら
大西 咲良



城北小2年 おおひら はると
大平 悠人



城東小3年 たけはら かける
武原 駆



城辰小2年 もり はづき
森 葉月



城南小2年 しのはた あんな
篠畑 杏奈

優 秀 作 品



本島小1年 すぎおか さつき
杉岡 咲月



郡家小3年 おおい ゆうご
大井 悠剛



飯野小2年 たかしま えみり
高島 えみり



垂水小6年 にしかわ かいと
西川 海翔



富熊小5年 とよた みお
豊田 望桜



栗熊小5年 いまい あやね
今井 絢音



岡田小3年 たなか えいすけ
田中 英佑



飯山南小6年 わたなべ りさ
渡邊 璃咲



飯山北小2年 ゆずりは たいき
杠 太暉

①障害者のための国際シンボルマーク

障害者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。

このマークは「すべての障害者を対象」としたものです。特に車椅子を利用する方に限定し、使用されるものではありません。

②ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることができるマークです。

ヘルプマークを身につけた方を見かけたら、席を譲ったり、状況に応じて声をかけたりするなどの配慮をお願いします。また、災害時は、安全に避難するための支援をお願いします。

③ほじょ犬マーク

身体障害者補助犬法の啓発のためのマークです。身体障害者補助犬とは、身体に障害のある人の目や耳、手足となって働くよう訓練された盲導犬・介助犬・聴導犬の総称です。

公共施設や交通機関、スーパー、レストランなどの民間施設は、補助犬同伴を受け入れる義務があります。補助犬はペットではありません。社会のマナーもきちんと訓練され、衛生面でもきちんと管理されています。法律や補助犬へのご理解とご協力をお願いします。

優 秀 作 品

城乾小四年 古閑 愛梨
仲間

城乾小4年 こが まり 古閑 愛梨

城坤小六年 岡田 拓也
敬愛 精神

城坤小6年 おかだ たくや 岡田 拓也

城北小六年 山田 望愛
自由 平等

城北小6年 やまだ のあ 山田 望愛

城西小六年 中原 嘉保
人権 尊重

城西小6年 なかはら かほ 中原 嘉保

城南小五年 藪 百花
友情

城南小5年 やぶ ももか 藪 百花

城東小四年 河合 宏樹
共生

城東小4年 かわい ひろき 河合 宏樹

城辰小五年 小南 詩音
きずな

城辰小5年 こみなみ しおん 小南 詩音

本島小六年 窪田 花笑
平和 永遠

本島小6年 くぼた かえ 窪田 花笑

郡家小五年 中西 絢菜
自由 平等

郡家小5年 なかにし あやな 中西 絢菜

飯野小六年 三浦 颯季
参加 協力

飯野小6年 みうら さき 三浦 颯季

垂水小六年 高橋 ひなた
人権 尊重

垂水小6年 たかはし ひなた 高橋 ひなた

富熊小五年 穂山 紗和
社会 共生

富熊小5年 あきやま さわ 穂山 紗和

栗熊小六年 長尾 朋弥
人权 宣言

栗熊小6年 なお ともや 長尾 朋弥

岡田小六年 國重 美咲
結ぶ 友情

岡田小6年 くにしげ みさき 國重 美咲

飯山南小六年 中尾 穂乃
相互 扶助

飯山南小6年 なお ほの 中尾 穂乃

飯山北小五年 峯口 佳桜
友情

飯山北小5年 みねぐち かお 峯口 佳桜

会長賞

新しい命へのメッセージ

郡家小 五年 香川 かがわ 遥太 はると

「母さんのおなかの中に赤ちゃんがいるよ。」お父さんからのとつ然の報告でしたが、すぐにうれしさがこみ上げてきました。家族で赤ちゃんの性別の話になったとき、「洗たくやそうじなど、家の手伝いをしてくれそうだから、ぼくは、女の子がいいな。」と、答えました。でも、その考え方が大きく変わる出来事が夏休みにありました。

ぼくは、宿題で人権作文を書くことに立候補しました。まずは、人権の意味を調べ、だれもが幸せな生活をするために、生まれたときからもっている権利だと知りました。人はみんなちがうので、おたがいの人権を理解することが人権を守ることにつながると言う言葉を見て、ぼくは、人権を守られているのか不安になりました。そこで次に、どんな人権問題があるのか調べました。十五個以上の問題が出てきて、その多さにびっくりしました。多くの人権問題の中でもLGBTQ+の意味が分からず、もっと知れた

いと思いました。「丸亀市の広報に入っていたこのパンフレットを読むといいよ。」

と、お母さんが虹色の紙をわたしてくれました。そのパンフレットには、LGBTQ+についてくわしく書かれていて、初めて知ることばかりでした。中でも、性的少数者がおよそ十一人に一人いることにおどろき、気が付いていないだけで、ぼくの周りにもいるのかもと思いました。今までLGBTQ+について理解できていなかったの、ぼくの言動で気づけなかった人がいるかもしれないと心配になりました。でも、パンフレットを読むことで、性について悩んでいる人がいると知ることができたので、これからの自分の言動に気を付けることができそうです。まずは、知ることが、周りの人の人権を理解することへの第一歩につながるのを感じました。

ぼくは、性の多様性に関するニュースにもびん感になりました。ある日、テレビでアーティストがゲイであることをカミング

アウトするニュースを観ました。その人が、時々なみだを流しながら、自分の言葉でいいいに話をしているのを見て、カミングアウトをするまでに、たくさん悩んだことが伝わってきました。ぼくも、話を聞きながら、苦しくなりました。でも、途中からファンの人が応援する言葉や温かい拍手を送るようになりアーティストが安心していくのが分かりました。ぼくもほっとしました。ファンの人のように、その人の個性を受け入れることが、人権を守ることにつながるのだと感じました。

今のぼくは、性別で決めつけるのではなく、一人ひとりの命、多様な個性をみとめ合うことが大切だと考えられるようになりました。だから、お母さんのお腹に話しかけました。

「赤ちゃんにも、自分らしく幸せに生きる権利があるよ。だから安心して生まれてきてね。みんな楽しんで待っているからね。」

会長賞

人を思う心をもつこと

城南小 六年 大島 おおしま 佐彩 さあや

私の母は、訪問看護の仕事をしています。病気のちりょうをしている人の自宅を訪問して体調を確認したり、必要であれば注射や点薬をしたりするのの仕事です。

ある日、母が右足首をけがして帰ってきたことがありました。病院にも行ってなかったので、私は湿布を貼ってあげました。湿布を貼りながら、けがの理由をたずねると、「訪問先の階段で足をふみはずしてね。どんくさいやろ。」

と笑って言いました。でも、話を聞いてみると、心に病気を持った人が何十年も掃除をしていない家の階段で、長年積もったほこりですべったというのでした。私は「なんで何十年も掃除をしないのだろう」と思いました。私も、片付けが苦手です。よく母に注意されます。その時は面倒くさいという気持ちになります。でも、心に病気を持った人たちは、面倒くさいという一しゅんの気持ちではなく、毎日の体や心の調

子によって左右されるので、掃除するのが難しいのだと、母が教えてくれました。

その話を聞いて「また母がけがをするのでは」と心配になってきました。母はその家に週二回訪問しているからです。すると母は、「足をけがした時は、湿布を貼れば数日で治るやろ。でも、心には湿布を貼ることはできないから、言葉で心を落ち着かせてあげたり、一緒にごはんを作ったりするんよ。そうすることで、「一人ではないよ」という気持ちを保持してもらおうことが大事なんよ。それは、一回や二回では治らない。長い年月を一緒に過ごして、治っていく病気だからお母さんは訪問看護に行くんよ。」

と、話してくれました。次の日、母が病院に行くくと足のじんたいが切れていました。母は足が痛そうに歩いていただけで、私はそんな母がとても誇らしく思えました。困っている人、悲しんでいる

人、苦しんでいる人に寄り添い、体を張って助けようとしているからです。私に出来ることはなんだろう。足が痛い母に湿布を貼ってあげること、手を貸してあげること。そして、私の近くにもきつといる、困っている友だち、悲しんでいる友だち、苦しんでいる友だちに寄り添って、声をかけることだと思えます。人間は一人では生きていけません。人と人が支え合って生きていくのだと母の話から教えられました。心がさびしい、苦しいと思ったら、一人で解決しようとするのはなく、誰かに相談できる社会でなければいけないと思いました。

母が訪問看護を寄り添っている患者さんから「ありがとう」と言われ、私が困っている友だちに「二人ではないよ」と声をかけて、「ありがとう」と言われ……。そんなふう

に人を思いやり、支え合う心が広がり、つながっていくような世界にしていきたいと思えます。

知っていますか？ このマーク

①



②



③



姉への私の想い

西中 二年 奥野 美柚

皆さんは知的障がいと聞いて何を思い浮かべますか？自分より考えや行動が劣っていたり、一緒にいる時はしつかり面倒を見なくてはならない、人目を気にする人がいるかもしれない。実は私の姉は知的障がいがあります。そのことについて、私が今まで感じたことを話そうと思います。

知的障がいがある姉は見た目は皆さんと何の変わりはなく、どこにでもいる普通の人はです。でも考える力や行動力はとてもデコボコしていて、できることとできないことの違いが激しいです。例えば、物事を一つ覚えるのにとても時間を費やすわりに忘れることはとても早かったり、自分の気持ちを言葉にするのが苦手だったり、指先が不器用だったり、大きな音や声が苦手だったり数えると、きりがありません。でも、自分の好きなことや物事になるととても熱中し、とんでもない力を発揮します。姉の得意なことの一つに手芸の刺し子があります。

一針一針縫うのには時間がかかりますが、できあがりが入り口並に細かく、売り物と変わらないくらい丁寧な仕上がりです。私は一時期、何をするのに時間もかかる姉を見てかわいそうだなと思っていました。でもそれは大きな間違いだったと今は感じます。姉はできないなりにできる方法を見つけ日々努力をしているからです。ヘレンケラーが「障がいは不幸ではありません。不便だけです。」という言葉のとおり、不幸ではないと思うからです。気がついた時が始まりで、姉への見方が変わり、今では勇気ややる気をもたらしています。そして、私たちと思考が少し違っているのか、思いつかないような言葉や行動を起こすことがあります。場の空気が凍っていてもマイペースに過し、笑いをくれて温かい空気に変えてくれます。私が落ちこんでいた時にも姉のおかげで立ち直ることができました。本人に自覚がないからこそできる技です。私たちにはないも

のを姉はたくさん持っています。特別支援学校の子たちと話をするときと思うのはやはり、おもしろいなということです。私たちとは目の付け所が違い、発想が異なるからです。中には、言葉を話せない子もいますが、その子達は全身で表現してくれます。彼らは差別を受けることがありますが他にない特別な存在だと思っています。今、日本では発達障がいにも当てはまらないグレーゾーンといわれる人が増えていて、心配している声を聞くことがあります。障がいがある人やグレーゾーンの人達は何も悪くありません。その人達を問題視し、世間から追い出そうとしている人達の方が問題だと思えます。なぜなら、その人達は良い所より悪い所の方へと目を向けているからです。私は、姉を含め、障がいのある人達の心に寄りそい力に少しでもなれる運動がしたいと思っています。

優 秀 作 品

【作文】小学生

- 児童虐待について
- 障害と人権ー知ることとよりそうことーごめんなさいがいっぱい
- みんなが幸せであるために大切なこと
- 「だいたい」のことは個性
- 自分にできること
- 「ごかい」を溶かしたい
- 「まほうのことは」でなかよしに
- 大好きだよ。ひいばあちゃん
- 自分が変わることの大切さ
- いじめを見かけた時私達ができること
- ふわふわことばをつかいたい
- 言葉とぼく
- 生きるための尊厳と死ぬための尊厳
- 見た目じゃないやさしさ

- 城乾小6年 池口 凜香
- 城坤小5年 齊藤 旭
- 城北小4年 松原 桜月
- 城西小6年 岡本 峻太
- 城南小1年 片山 貴穂
- 城東小4年 澤村 来
- 城辰小5年 岡田 音穂
- 本島小4年 高橋 蒼介
- 郡家小2年 綾 瑠希
- 飯野小5年 赤澤 羽乃
- 垂水小6年 落合 絢香
- 富熊小6年 黒川 恋
- 栗熊小2年 吉田 翠
- 岡田小4年 加藤 義生
- 飯山南小6年 吉原 優
- 飯山北小3年 吉木 寛

【作文】中学生

- 私にできること
- 私にできる介護とは
- 善意の気遣い
- 賢く強い私たち
- 「匿名」
- 「自分らしさ」がだせる社会

- 東中2年 小幡 悠花
- 西中2年 山内 悠紀菜
- 南中2年 岩倉 実波
- 本島中3年 岡田 結和
- 綾歌中3年 堀内 悠理奈
- 飯山中1年 安藝 芽衣

【標語】中学生

- 知らぬ間に 傷つけてない？ その偏見
- 誹謗中傷 書かず広げず 加わらず
- その言葉 相手の気持ち 考えた？
- にじいろの 互いの個性 認め合おう
- 大丈夫 あなたの周り みんないる

- 東中1年 廣瀬 玲璃
- 南中2年 御厨 沙央利
- 本島中1年 北脇 西
- 綾歌中1年 近藤 悠仁
- 飯山中1年 平岡 桃華

日頃、子どもたちが一生懸命取り組んでいる人権学習の成果を発表していただくために、今年も市内の小学生・中学生から人権作品を募集し、ポスター120点、習字78点、作文51点、標語28点の応募がありました。

どの作品にも、人権尊重と差別解消を強く訴える姿勢がうかがわれ、また、日常生活において日頃考えていることや、直接感じた人権問題が若い感性を通して表現されています。

そのなかの会長賞と優秀作品を紹介いたします。